

# RHELを買う前に知っておきたいこと

2020-09

## このスライドについて

- 対象: RHELのサポート可否やパートナー経由の提供方式について馴染みがない方
- 目的: 購入前に決定が必要となる以下の選択肢を検討できるようにする
  - サポート対象となるハードウェアおよび仮想化環境
  - アドオン製品の必要有無
  - 通常製品、OEM製品、CCSP製品、Cloud Access

# 目次

- サブスクリプションで何を買っているのか
- サポート対象の環境を整える
- 何を何本買うべき？
- RHELには大きく3種類の提供形態がある(Red Hat, OEM, CCSP)
- パブリッククラウドでのRHEL

# サブスクリプションで何を買っているのか？

RHELのサブスクリプションは「ライセンス(利用権)」ではなく以下のようなサービスを提供しています。組織全体の包括契約で、一部のシステムだけを契約するようなことは一般にできません。

- 該当する製品の新旧バージョンへのアクセス
- ライフサイクルポリシーに従ったメンテナンスの実施
- サポート窓口でのトラブルシュート支援および機能拡張リクエストの受付、原因調査、ソフトウェアの修正
- ソフトウェア特許などについての訴訟対策となるオープンソース保証プログラム

# サポート対象の環境を整える

- RHELの主な価値はソフトウェアのメンテナンスとサポートです
- 価値をひきだすためには、サポートされるハードウェア、仮想化環境、クラウド環境などを整えることが重要です

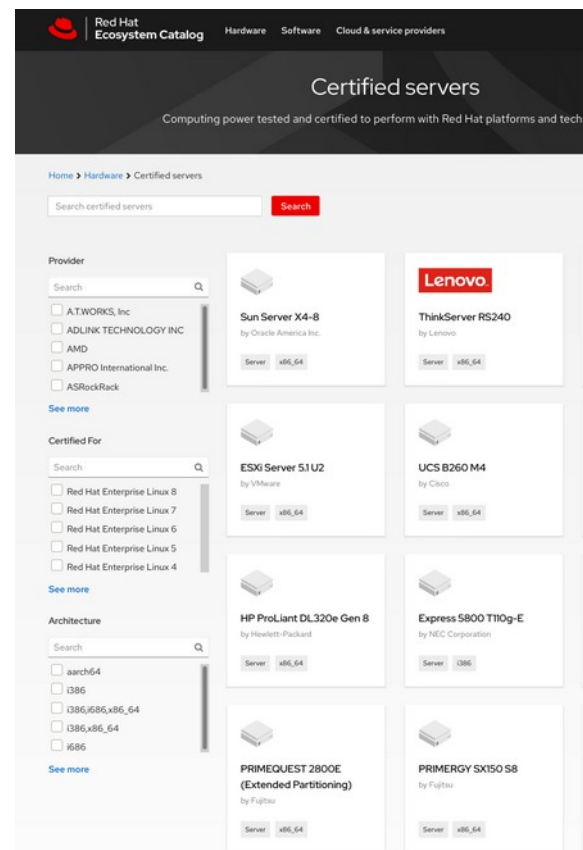
※ サポート対象外の環境で利用しても契約上の問題はありませんが、以下のようなデメリットがあります

- 品質保証エンジニアリングの対象に含まれておらず、テストされていません
- 環境特有であることが疑われる問題について、サポート対象の環境で問題再現をお願いする場合があります
- サブスクリプションはサポート対象の環境で利用する場合と同じだけ必要です

# ハードウェア認定

- Red Hatとハードウェアベンダは共同でハードウェアの検証や、サポートのための体制を整えています
- いわゆる相性問題などが発生するため、パーツ単位ではなく、製品単位で認定を実施しています
- 認定ハードウェアカタログを公開しています

<https://catalog.redhat.com/hardware/servers/search>



# 認定仮想化環境

RHELは、Red Hat製品による仮想化環境のほか、以下2社と協働してサポート体制を構築し、各社の仮想化環境をサポート対象としています

- VMware vSphere
- Microsoft Hyper-V

※ Oracle VM, Nutanix AHVなどはサポート対象外ですのでご注意ください

バージョン毎の対応状況は認定ハードウェアカタログ内に記載されています

<https://access.redhat.com/certified-hypervisors>

# 技術上限とサポート上限

- RHELが扱えるハードウェアの上限は非常に大きいため、大抵の場合不足することはありません
  - 特定の認定ハードウェアに対応するため、例外的にサポート上限を上げることも行っています
- 最低限必要なリソースはメジャーバージョン毎に大きくなっているため注意が必要です
- <https://access.redhat.com/ja/articles/1271503>

## Red Hat Enterprise Linux テクノロジー 限

更新 July 21 2020 at 2:21 AM - Japanese ▾

Red Hat® Enterprise Linux® にはどのような機能がありますか？以下サポート上の制限と理論上の制限を確認できます。

サポート上の制限は、Red Hat と、メインストリームハードウェアのパートナー企業の現在の状況を反映しています。このようなサポート上の制限を越え、パートナー企業によるジョイントテスト後に、Hardware Catalog に追加に記載されるサポート上の制限を超えていても、Hardware Catalog ステム固有の制限に関する詳細への参照が含まれ、完全にサポートされたサポ映したサポート上の制限の他にも、Red Hat Enterprise Linux サブス限が課される可能性があります。

サポート上の制限は、進行中のテストが完了すると変更される場合があります。

以下の値は、テスト済み/サポート上 [理論上] の形式になります。

### 論理 CPU の最大数

Red Hat では、論理 CPU を任意のスケジュール可能な実体と定義し、コア/スレッドプロセッサ上のコア/スレッドは、すべて論理 CPU です。

アーキテクチャー	RHEL 3	RHEL 4	RHEL 5	RHEL 6
x86	16	32	32	32
Itanium 2	8	256 [512]	256 [1024]	該当なし <sup>3</sup>
x86_64	8	64 [64]	160 [255]	448 [4096] <sup>13</sup>
POWER	8	64 [128]	128	128
System z	64 (z900)	64 (z10 EC)	64 (z13)	64 (z13)



## 何を何本買うべき？

- 実現したい構成に対して、どのサブスクリプションを何本買う必要があるかは「Red Hat Enterprise Linux サブスクリプションガイド」をご確認ください

<https://www.redhat.com/ja/resources/red-hat-enterprise-linux-subscription-guide>

- 上記ガイドでわからない場合は、弊社またはパートナー各社の営業窓口までお問い合わせください

<https://www.redhat.com/ja/about/japan-buy>

# アドオン製品

以下のアドオン製品が存在し、追加の機能を提供しています。

- Smart Management
  - 複数台のRHELを集中管理し、運用効率をあげる**Red Hat Satellite**を提供します。
- High Availability
  - 高可用性クラスタを構成するための**Pacemaker**と関連するソフトウェアを提供します。
  - VMware HAなど**Red Hat製品以外**の仕組みでのHA構成には**不要**です。
- Resilient Storage
  - 共有ストレージ上で利用可能なファイルシステム**GFS2**と、ボリューム管理**CLVM**、**Clustered Samba**を提供します。

## RHELには大きく3種類の提供形態がある

	Red Hat(L123)	OEM(L3)	CCSP
サポート窓口	Red Hat	OEM各社	CCSP各社
サポート範囲	Red Hat定義	OEM各社定義	Red Hat定義と同じ
オンプレミスの任意ハードウェアで利用	○	OEM各社のポリシーによる	×(提供事業者のクラウドサービスの一部としてのみ)
クラウドへの持ち込み	認定クラウドのみ Cloud Access申請で可	×	提供事業者のクラウドのみ
ハードウェアとの統合サポート	N/A	○	N/A
クラウドサービスと統合サポート	N/A	N/A	○
カスタマーポータル	○	○	×
購入期間の単位	1年	1年	事業者により短期間も可

# 通常の製品とOEM製品の違い

- RHELには**Red Hatがサポート窓口**となる通常の製品と、**OEMパートナーがサポート窓口**となるOEM製品があります。
- OEM製品はサポート窓口が違うだけでなく、OEM各社によりサポートの条件・範囲・内容などが異なります。
  - OEM各社が受けつけた問い合わせの内、製品の修正が必要なものについてはRed Hatへエスカレーションされます
- OEM製品をAWSなどのクラウド事業者を持ち込むことはできません
- OEM製品はハードウェアとOSを1社で提供するためサポート時の問題切り分けが不要にできる他、通常より長いマイナーバージョンのサポートや追加のサービスを提供することができます

# パブリッククラウドでのRHEL

クラウド事業者での利用形態は以下の3種類あり、クラウド事業者により利用可否が異なります。

- **Pay as you go:** クラウドサービスの一部としてRHELを購入、サポートや提供はクラウド事業者が行います。事業者により従量課金が可能な場合があります。
- **イメージ持ち込み:** Red HatからRHELを購入してCloud Accessの申請。ユーザ各社で作成した仮想マシンイメージを持ち込みます。
- **Gold Image:** Red HatからRHELを購入してCloud Accessの申請。クラウド事業者が提供するGold Imageと呼ばれるイメージを利用します。

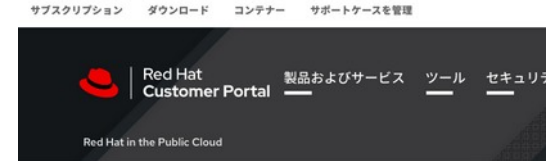
どの方式が利用可能かや、クラウド事業者が提供するイメージの内容、どの製品が利用可能かなどは各社により異なります。クラウド事業者のカatalogを公開しています。

<https://catalog.redhat.com/cloud/images/search>

# Cloud Access

- RHELの一般的なサブスクリプション契約では、ユーザは他社の環境にRHELを持ち込むことが禁止されています。
- 特定パートナーに例外を許可する仕組みがCloud Accessです
  - 「イメージ持ち込み」「Gold Image」はこのCloud Access申請が必要です。
  - 持ち込むサブスクリプションと本数を選択してフォームで申請します

<https://access.redhat.com/public-cloud>



⚠ A translation for your language preference does not exist.

## Red Hat in the Public Cloud

With Red Hat Cloud Access, you can keep all the support and subscription provides when you move eligible Red Hat products to Red Hat Certified Cloud and Service Provider.

[Learn more about the benefits of Cloud Access](#)

### Enable subscriptions for Cloud Access

#### Bring your own image to the cloud

Build or migrate your own custom images into the cloud using Red Hat Image Builder instead of manual processes while keeping all of the benefits your Red Hat subscriptions provide.

[ENABLE SUBSCRIPTIONS](#)

#### Use Red Hat Gold Images on Amazon Web Services

Enable your eligible Red Hat subscriptions for Cloud Access to unlock Red Hat Gold Images on Amazon Web Services (AWS) within your AWS console or CLI. [Learn how to use Red Hat Gold Images on AWS](#)

[ENABLE SUBSCRIPTIONS](#)

#### Use Red Hat Gold Images on Microsoft Azure

Enable your eligible Red Hat subscriptions for Cloud Access to unlock Red Hat Gold Images on Microsoft Azure within your Azure console or CLI. [Learn how to use Red Hat Gold Images on Azure](#)

Red Hat offers specific Gold Images for Generation 2 VMs. [Learn more](#)

[ENABLE SUBSCRIPTIONS](#)

## Cloud AccessとPAYGの違い

- Cloud AccessではRed Hatとの契約をおこない、実行する場所がクラウド環境となります。サポート窓口はRed Hatのままです。
- PAYGでは、契約先とサポート窓口がクラウド事業者になるほか、提供製品や、提供方法も事業者により変わります。
- スライド「[RHUIとCloud Access比較](#)」
- <https://catalog.redhat.com/cloud/images/search>

## まとめ

- サブスクリプションで何を買っているのか
- サポート対象の環境を整える
- 何を何本買うべき？
- RHELには大きく3種類の提供形態がある(Red Hat, OEM, CCSP)
- パブリッククラウドでのRHEL